

Gさん（身体障害・復職①）

①家での暮らしを安定させよう（生活支援課：ADL 訓練）

Gさんは脳梗塞の後遺症で左片麻痺が後遺症として残りました。入院中は、着替えや入浴など、日常生活のいろいろなことを、看護師さんに手伝ってもらっていました。自宅に帰るための準備として、リハビリセンターの生活支援課（入所支援・自立訓練）のサービスを利用し、日常生活の動作を自分でできるように練習をしました。

また歩行訓練も一生懸命行い、杖を使って屋外歩行までできるようになりました。

②定期的な通所や作業に慣れよう（生活支援課：生活リズム・健康管理）

毎日電車に乗って会社に行けるか、行くだけではなく仕事をする体力があるか、Gさんはとても心配していました。週に1回自宅に外泊し、リハビリセンターと自宅の間を電車を使って移動する練習をしました。余裕がある日には、生活支援課でパソコンの練習も取り入れ、復職に向け、少しずつ体を慣れさせていきました。

③自分にできる仕事、難しい仕事を整理しよう（就労支援課：通所プログラム）

後遺症が仕事に影響するのか、どんな配慮があればできるのか、疲れると作業スピードや正確性は変わるのか、就労支援課に通所し、実際に毎日作業を体験しながら確認していきました。

職場で行うようなパソコン作業や電話対応、ディスカッションも体験しました。

④職場との調整をしよう（就労支援課：復職調整）

いよいよ職場との調整開始です。今までのリハビリの様子を報告し、仕事の内容や配慮事項を調整していきます。

職場との打ち合わせには就労支援課職員も同席し、Gさんができる仕事を、客観的な事実をもとに具体的に説明します。

Gさんは1か月のリハビリ出勤で負荷を確認し、無事、職場復帰しました。